

遊学の森からのお知らせ

「竜馬山登山」

【ねらい】

竜馬山の物語に耳を傾けながら、早春の竜馬山に和かんじきでのぼります。

【実施主体】

遊学の森案内人会

【活動内容】

○日時: 令和6年3月24日(日)

○時間: 9:30(集合)~14:00頃(解散)まで

○会場: 遊学の森「木もれび館」

○定員: 20名程度(山にのぼる服装でお願いします。)

○申込: 令和6年3月17日(日)まで(電話、メール、FAX 等でご連絡ください。)

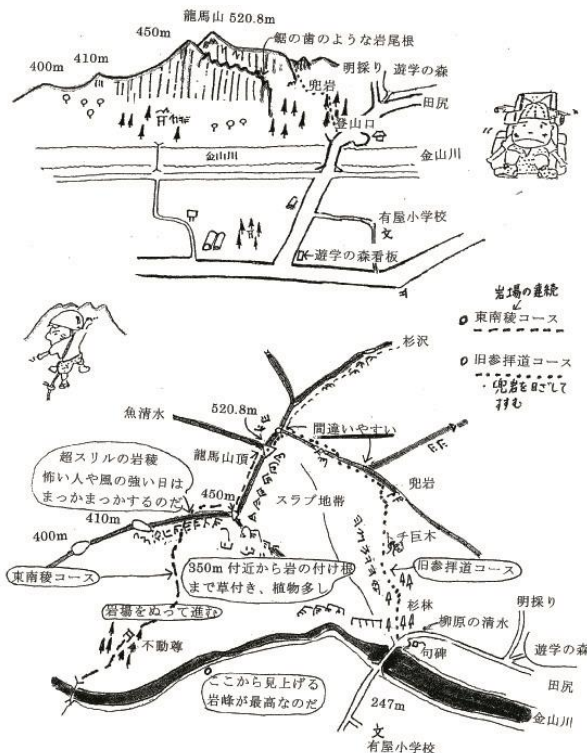
○料金: 1,000円(入浴券、おにぎり程度の昼食付)

○持ち物: 飲料水、和かんじきやスノーシュー(今年は、雪がないと思われます。)

※和かんじきは、お貸しすることができます。(数に限りがあります。)



龍馬山略図



LINE 公式アカウント

友だち 募集中

@872zgxjl

LINEの「友だち追加」から、ID検索するか
QRコードをスキャンしてください

△イベント情報を配信しています！

【お問い合わせ・お申込み先】

遊学の森「木もれび館」0233-64-3305 遊学の森HP

裏面もご覧ください！



1 有屋の竜馬山

(金山町)

竜馬山は金山町有屋の北方にそびえる岩山で、その脚下を金山川が流れている。有屋の方からみると、あたかも屏風を立てたように見え、如何にも神秘的な山である。

竜馬山は、もと妙寿ヶ岳とか、また、竜馬が現われるというので駒ヶ岳とも呼ばれた。

この山は、むかしは他の山と同じく、丸く土で覆われた山であったが、大同二年(八〇七)六月一日の大雨で、金山川上流の明神沢に大きな山崩れが起こり、この谷川をせきとめた。これが一番に破れ、竜馬山に激突し、土砂を洗い流したので、現在のような岩山になったという。この大洪水は、最明寺入

蓮時頼が神聖山を開山したのを、神々が怒ったために起こったと伝えている。

竜馬山の中腹には、底知れない大穴があるが、ここには年老いた白鬘が棲んでおり、六十年に一度だけ姿をみせるといふ。二年前にも一度出たが、その前は、大正四年に九十四歳で死んだ人が六才のときに姿を現わしたと伝えられる。ある夏の早朝、村の子どもが草刈りに行ったところ、朝もやの中に白い馬の頭に竜の体をもった巨大な竜馬が現われ、速い勢いで山腹を縫い、雲とともに天に昇って行ったということである。少年は気が悪くなり、家に帰るなり寝込んでしまった。親達には「恐ろしいものを見た。」と告げるのみで、永く竜馬の神体に触れようとはしなかったという。

文献にも、竜馬の出現がしばしば記されている。

『最上年代記』によれば「寛文八年(一六八八)四月廿一日より五月迄有屋村明神ヶ岳に竜馬現わる。前後五回。此年大旱。」の記録を初め、延宝五年(一六七七)、同七年(この年は藩主正殿が有屋に行き竜馬をみている)、享永五年(一七〇八)、弘化三年(一八四五)の各年に現われたとある。

その後、竜馬が現われなくなったのは、時の藩主が、我が領内に鬼神が出没するとはもつての外とて、三百人の鉄砲組を繰り出し、御前淵に鉄砲を構えて、竜馬を射殺したからだといふ。

竜馬山は農作の神とも、火の神とも、また馬産の神とも信じられている。祭日の旧六月二八日は有屋村全体の祭りである。人々は(男のみ)、朝暗いうちに、白衣の袂裏にシメカケをつけて、竜馬山の各所をめくって登拝する。

また、むかし宮村の牝馬が、夜中急に逃げ出し、この山の麓の前野で竜馬と交つて栗毛の仔馬を生んだ。やがて仔馬は中村に売られたが、不思議に身の軽い馬で、屋根の上に登つて昼寝をするほどであつ

た。新庄の殿様は、この馬を欲しがり、大金を投じて手に入れ、江戸でも評判の乗馬の達人になったとの話が、いまに語り継がれている。

